

神國

加
魔

殺

天竺の兵術士が曰くも三十棒

はるる三十棒とは是處室を打

かゝるぬめりと交那のちしき

の曰正鵠と失し肘と需と家神

比印可ハ神秘と開て見ざるの

糞臭ぬハ蓋するハ卯神より

睫ふとハ近て見ぬなり

是正秘より

千金のちと送賜の人ありとも物上
よりてふふとふとふとふと
送と秘のちとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふと

十寸穂

寂仲



天竺の末葉

わねりし金神や。その神乃親され。月くあふ
後より末葉。其千代の清神樂と。此巫歌を神國
の風化よりいひて延令息災の祈りたり。元中大乃
親とて思ふけぬ不仕合。あそび物性の家。いふは
令の神乃崇り付てあふりあふり。いふは竈の本火
土令水の始りて。人間乃令とつて。基られへとれつら
此五の神。天の神れ七代の清地より。穢しとせ。災か
の事とあふり。猶と不吉。陰と濁と。いふはふり。かり
荒神の名。愛野。教明なり。三亥の名。猶。毒。又。火
湯と清と。あふり。火とあふり。あふり。金銭。見がら

支那神道なり。日本の神職人。かくに二分なり。支
 那神乃にふかり。七分は天竺神乃に荷擔せり。
 故に。日本の神道といふものいまだくにおあふ
 るぞ。此時に己を神と尊りて一見所を立宗
 源甚妙なり神乃と探めり。あざんば日本流の唯一
 なり。人なるを秘し。神伊弉諾伊弉冉乃に陰れ。欠
 ころ。雨陽の余り。始を混令て。鶴鶴は羽る。あづ
 美和待生れ。ゆり。そ。岩戸の目出度。神乃飛
 の千早振。面白の祝あり。神乃弊。み。千津。白木
 綿。青和帛の禮。弄彼。逆緯の一滴。千河。美流。して

人畜。若。あ。成。産。む。か。せ。あ。つ。と。け。入。る。ま。根。を。受。ま。
 て。八。子。垣。乃。妻。糸。住。吉。の。神。乃。種。り。角。雄。と。わ。り。
 り。れ。夜。の。敷。れ。神。遊。り。う。や。き。う。の。妙。つ。き。ど。下。照。
 耶。の。下。萌。入。天。稚。乃。を。引。く。あ。れ。さ。ぬ。大。已。貴。と。千。
 と。耶。乃。より。さ。う。さ。う。い。ふ。百。八。十。の。生。育。ふ。な。と。
 加。美。川。の。丹。塗。れ。天。之。臨。乃。修。玉。巻。ふ。祖。乃。持。
 社。風。雨。乃。神。より。支。婦。く。とい。ふ。あ。こ。う。年。根。
 乃。神。多。又。湯。解。後。解。く。て。男。根。女。根。を。能。り。年。
 熟。り。交。合。の。多。用。價。促。令。間。の。う。り。女。物。貴。
 の。化。粧。し。あ。ね。り。糸。竹。を。巻。き。倒。る。を。ゆ。り。甲。か。え。

[illegible]

人より成りし佛は師い己がけの平るれい。立て日本の
 神も地を親音と仰どろいむたり。日本の國化より
 ちるふ士農工商乃今自をまは百姓に地を親音と
 仰り。我國神のふくふて風林と大切なるをも。
 本立能目らなるも又佛乃とくといひ此せい。
 うるの常。長い末世を秘ぐ妻に福田の基。子い三男
 の加といひて袈裟とくまれとくも。あるふ子安乃
 親者。後帝の地をちといひ。佛のさといふものと。奇
 いとるされい。板に現世とすうもさういふ林のさるんと。
 氣の所くいさ苦なり。猿田彦の結ぶ乃神たり。成。

用ふゆゑに。供ひて。遠く決められし。をば。も
 く。是れ。ぬがら。ち。の。是れ。ぬがら。義理。合の。介
 人。の。借との。つ。を。布。そ。う。ふ。ね。い。一。か。ま。は。い。ふ。と。
 人。の。知。は。い。は。い。我。れ。も。て。人。の。お。供。て。つ。し。る。其
 貸。者。も。破。く。さ。れ。い。唯。い。か。さ。す。利。合。ま。さ。る。そ。れ。を
 乞。て。も。恥。く。い。な。く。あ。う。ろ。の。一。か。れ。ま。ぬ。と。れ
 不。そ。り。然。つ。て。さ。う。に。我。れ。も。と。く。れ。し。む。ろ。の。そ。も
 く。何。ろ。ろ。と。あ。れ。い。知。と。さ。る。れ。ろ。ろ。に。く。り。て
 日本。の。神。刻。の。と。り。と。う。く。ゆ。か。り

士。の。道。の。氏。を。い。れ。と。守。れ。一。か。ま。は。忠。誠。い
 身。を。い。れ。義。の。ろ。一。令。と。勘。て。れ。ろ。ろ。令。を。お。し
 と。何。ろ。も。ま。れ。ろ。と。思。ろ。ろ。い。士。の。一。を。ち。れ。先。我。れ
 神。を。其。氏。を。継。う。い。金。部。の。小。徑。よ。う。い。氏。神。乃
 大。道。と。い。い。是。正。直。の。軌。ち。り

農。人。の。農。の。氏。神。を。い。れ。と。工。人。の。氏。神。商。の
 高。の。氏。神。を。い。れ。と。其。一。と。守。り。ま。る。大。道。と。す
 是。よ。う。て。生。主。神。の。身。の。安。全。と。ち。り。氏。神。の。あ。つ
 乃。相。談。を。守。り。ま。る。と。て。さ。る。修。と。ろ。う。我。國。の。物
 目。の。直。ち。の。神。道。か。り。学。文。も。智。恵。も。い。は。れ。目。達。い

乃ほさうり風化を候從とてさういけりい悉くま
 那風ふわふりきれたといふさう。日本の鬼あらん
 人いさく味へさなり
 眼筋の刺洞いささのけさうの情明もわく金盛の
 ら佛とて未乃まほさういさうた考るる。倉のとな
 蠅退やうちれ低うら作はと星とて人を
 あさじと世にさうわくやうさう。まゆ天多う流り
 とやうてせが實にやすうあさや。一旦の俗信に
 あられも。一人も直をけりものあう。日月の光と
 こそ子孫うめり業

今迄神幣神鏡のまきり神と高く信づけて今
 又神像とまれの儀をけり。ゆゑに神は清く己
 り尊から。作さるにまきり神意眼をさうと種神
 器ハト。まきりやと忌と畏れとも。両所を神
 宮よ公の神板立てまきり神の法居とて神意
 立神鏡儀。遷宮は神衣のさう夜乃佐の具。清
 神掃宮。神杖。まきり。あさや。御衣を祀。具又鐵人
 形。わけてまきり。清令格。ハ事相の神道なり
 まきり。九人ハ畏と畏とまきり。さう。神像と
 形容。まきり。ハ。二天乃宗廟事理。合一の習を

人氏の直をとりてまじけり。きこめ才一なり。
つうへれまゝに己うあて早く道は入られ先國
まゐらう。目の本れ道をあてて神のまにせれ
あるをいれと。是にうておのう直と守る今
のまにせう。わう他は確まんとす。去程は多く
見。廣くわうはうて。是をれめ紙うーやう
文書されいふのなうれ笑う。ぐやうそれう
まに入ちうわはう。道のまゝのわに様。んま
親にう律儀。まうと。商う精を入且ま。ゆあ
て金銀を仕。溜。あな。端を求め。ゆ。他。暖。う。機。車。車。
て金銀を仕溜あな端を求めゆ他暖う機車車

けとい何不足なけと。幼がう。利簡。は。と。た。が
う。あ。て。る。文。字。は。顔。されい。人。中。へ。出。て。は。長。う
け。出。て。は。黒。名。と。つ。つ。と。て。う。能。が。悔。け。と
う。う。う。も。う。れ。れ。ゆ。い。ひ。子。を。い。物。う。う。智
う。へ。て。お。あ。も。も。書。も。は。う。う。の。わ。う。其。子
わ。の。早。く。ま。文。に。長。う。わ。ま。う。う。人。茶。道。蹴。鞠。う。う。さ
り。分。れ。る。上。人。は。ま。う。ゆ。え。回。う。う。口。端。ま。て。れ
れ。う。れ。れ。親。に。う。文。書。と。る。う。は。あ。く。ま。う。親
を。う。わ。う。屋。は。親。と。う。人。と。う。あ。わ。う。さ。様。も
智。恵。う。て。れ。を。ち。う。う。と。う。か。う。う。は。な。う

人間才二の急務は湯和合の天理にあらざるをせに
困らんとす妨られても人々をまぢりしつゝをさるゝ氣
の煩悩まじりのつゞき合同全と合点するを後回
を殊本乃千條ははりききききききききききき
縁やこそむし人の意ありかたなりま那まきき
ききききききききききききききききききき
ろこそいふれきききききききききききききき
根性よりけりきききききききききききききき
好みききききききききききききききききき
といひききききききききききききききききき

もせよ智恵分別ても識了の多條に思ふて天道い
か神は依やが丹心こそ清ききききききききき
入るるきききききききききききききききき
まきききききききききききききききききき
ききききききききききききききききききき
代きききききききききききききききききき
様とあきききききききききききききききき
和るききききききききききききききききき
きききききききききききききききききき
てききききききききききききききききき
傳

